

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし24時間ケアサービスステーション
所在地	(〒 940 - 0098) 新潟県長岡市信濃2-6-18		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24時間365日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021年 9月 30日	従業者等自己評価 実施人数	(19) 人 ※管理者を含む
----------------	-----------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022年 2月 2日	出席人数 (合計)	(24) 人 ※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (4人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (3人) <input type="checkbox"/> 利用者 (1人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (13人) <input type="checkbox"/> その他 (4人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	(令和3年度に向けて) 前回の改善計画	(令和3年度) 実施した具体的な取組	(令和3年度) 進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めのヘルパー全体研修で理念と運営方針・業務目標を明確に理解したうえで業務遂行し、ケアの質の向上を目指す。 ・事業所の運営状況を客観化するため、推進委員に対して「会報」を定期的に発行する。 ・災害に対する対応訓練や、防犯対策の他、感染対策について具体的に動けるよう対策の評価修正を適宜行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めのヘルパー研修において理念・運営方針及び業務目標について共通認識する場を設けた。 ・毎月1回、運営状況について記載した会報を発行し情報発信した。 ・災害発生危険度が高い水害に対して、避難援助の優先度の評価を適宜行った。また、新型コロナウイルス感染予防対策として具体的な研修を行い、万が一事業所に感染が入った場合に備え、こぶし系ヘルパー5事業所が連携し対応できるように取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めのヘルパー研修において理念及び運営方針について説明・共有する機会を設け質の向上に努めている。 ・毎月1回、運営状況について記載した会報を発行し、推進委員に報告することができている。 ・水害時の対策として利用者の避難援助優先度の評価を行い、利用者の安全に努めている。 ・新型コロナウイルス感染予防の具体的な研修を実施し予防に努めている。また、万が一事業所に感染が入った場合に備え、こぶし系ヘルパー5事業所が連携し対応できるように取り組んでいる。 	
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の「その人らしい在宅生活の維持」ができるようにアセスメント力を強化し、援助に反映させていく。 ・職員一人一人の「気づき」の質を高めると共に、職員間の情報共有から課題検討、評価に繋がるよう、チームミーティングを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合ミーティングが出ない場合においても職員一人一人の意見ができる限り反映されるような方法でチームミーティングを開催し、アセスメント力の向上に努めた。 ・「気づきハート」を取り入れることで、小さな気づきを多くの職員から発信することができ、細やかなケアの提供に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成責任者を中心としたチームミーティングにおいてアセスメント力の資質向上に努めているが、チームメンバーが全員集合して行うことが難しい状況となっている。 ・「気づきハート」を取り入れることにより、利用者に関する小さな気づきを表面化することができつつある。 ・月1回のチームミーティングを開催し、

			<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のチームミーティングを開催し、利用者状況の確認と課題について検討した。 	利用者状況の検討、援助内容の評価を行っている。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携訪問看護事業所からの毎月のアセスメント及びモニタリングについて改めてご協力と周知をし、医療的視点を加えて良質なケアに繋げていく。 ・タブレット活用による日々の状況把握、そこから課題を導き出せるよう職員一人一人の「気付き」視点の強化、伝達力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職のアセスメントに加え、訪問介護計画に対するモニタリングをいただき、良質なケアの提供に努めた。 ・利用者のケアに関する「気付き」についての意識が高まり、発信する職員が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職のアセスメントに加え、訪問介護計画に対する看護視点でのモニタリングをいただき、良質なケアの提供に努めている。 ・職員一人一人が日々の訪問での「気付き」をタブレットで発信し、自分では気付くことができないことを知ることができている。
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の定期発行を継続する。 ・新型コロナウイルスの状況によるが、地域の集まり事が再開した場合は集まりに参加し、情報収集及び介護の情報を発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回、広報誌「まも～る通信」を定期発行し、隣接町内会回覧などで広報することができている。 ・近隣地区福祉会が定期開催している「地域のお茶の間」に参加し、時に情報発信に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通りに広報誌「まも～る通信」を定期発行することができ、情報を発信できている。 ・近隣地区福祉会が定期開催している「地域のお茶の間」に参加し、情報収集や介護情報の発信に努めている。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットによる多職種、他事業所との積極的な連携と情報ツールとなる「Team」ソフトの情報共有方法の工夫を行っていく。 ・具体的な目標設定や状態悪化や事故を防ぐことが出来る様に職員一人一人のアセスメント力、気付きの視点を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内でシステムの要望をまとめ、改善要望としてシステム会社に伝えた。フェニックスネットが今現在どのような状況なのかを関係機関に確認した。 ・気づきハートの記録を導入する事により、迅速な対応等が出来た。記録を確認する時間が取れ、一人一人が見る視点が出来てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母体施設であるこぶし園において立ち上げた「フェニックスネット推進プロジェクト」に参加し、こぶし園内他事業とも連携を進めている。複数サービスを利用されている場合の情報共有が速くなっている。 ・職員一人一人の危険に対するアセスメント結果や評価や気づきの声が多くなり、職員の意識が高まってきている。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・会議、ミーティング体制の質の向上を図り、支援体制の強化に努める。 ・介護報酬改定もあり、改めて制度の熟知と正しい運営を職員と共有しながら、地域と共にできることを発信していく。 ・推進会議・アンケート調査・自己評価等の取り組みをしっかりとフィードバックし、課題に対しての改善・目標に向けての取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングでは予め報告で済む内容と、話し合いをすべき内容を分けて時間を有効に使った。 ・年度初めに介護報酬改定の研修を行い、正しい運営を学ぶ機会を作った。 ・推進会議はコロナ禍もあり、書面開催で年間通し終わった。 ・一年を通してやるべき内容をスケジュール立て、期日に遅れることなく、進めて行くことが出来た。 ・職員一人一人の意見が反映されるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ミーティング、会議の開催方法を検討し、有効的に実施できるように努めている。 ・年度初めに介護報酬改定の研修を行い、正しい運営を学ぶ機会を作った。 ・計画作成責任者を中心としたチームミーティング（少人数制）により、職員一人一人の意見が表面化し、反映されるように努めている。
--	---	---	---

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	(令和3年度) 評価結果	(令和4年度に向けて) 改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めのヘルパー研修において理念や運営方針について共有する機会を設け、個々の職員が業務目標を明確に理解することができた。 ・毎月会報を発行し、推進委員に運営状況について報告することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー全体として理念・運営方針・業務目標を共有し、理解した上で業務を遂行する。 ・事業所の運営状況を客観化するため「会報」を作成し、推進委員に定期発行する。 ・災害（特に水害）や感染症による事業運営困難時における対応マニュアルの適宜更新及び職員周知を行い、発生時に速やかに利用者の安全、安心したサービス提供が継続出来るようにする。

Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・「気づきハート」を取り入れたことにより、利用者に関する小さな気づきを表面化することが可能になったが、その活用はまだ一部の職員に留まっている。 ・月1回のチームミーティングは開催方法を工夫した中で行い、利用者状況の検討、援助内容の評価やスタッフ意見集約を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の「その人らしい在宅生活の維持」ができるようにアセスメント力を強化し、援助に反映させていく。 ・職員一人一人の「気づき」の質を高めると共に、職員間の情報共有から課題検討、評価に繋がるよう、チームミーティングを継続する。また、できる限りメンバー全員が参加したミーティングの開催や目的が達成できるための開催方法を検討していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職のアセスメント及びモニタリングにより、医療的視点を加えて良質なケアの提供に努めることができた。 ・状況変化時は迅速に連絡を行い、対応ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携を継続し、適切で良質なケアを提供していく。 ・関連機関との連携方法を適宜見直し、改善を図り、より有効な連携方法を検討していく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通りに広報誌「まもーる通信」を定期発行し、情報を発信することができた。 ・新型コロナウイルスの状況に合わせて「地域のお茶の間」に参加し、介護情報の発信に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の作成段階から地域の皆様との交流をさらに深め、情報発信のみならず、地域ネットワークづくりに貢献する。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)	<ul style="list-style-type: none"> ・「理念」「運営方針」「業務目標」の共通認識を図り、「その人らしい在宅生活の維持」ができるように努めた。 ・関連機関との連携を強め、連携方法について検討、改善を図り、正確で迅速な状況共有に努めた。 ・各ミーティングや会議等により、ご利用者の課題等の速やかな改善や「気づきハート」による細かなケアの実践により安全安心した在宅生活が継続できるようなケアの提供に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人一人が「理念」「運営方針」「業務目標」を共通認識し適切で良質なケアの提供を目指す。 ・関連機関との連携を強め、各専門職からの視点での意見を把握し、適切で良質なケアの提供に努める。 ・フェニックスネットによる多職種、他事業所との積極的な連携と情報ツールとなる「Team」ソフトの情報共有方法の工夫を行っていく。 ・利用者のケアや事業所運営に関して職員一人一人が積極的に意見を発信し、安全で安心したケアの提供を目指す。 	

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します